令和元年度　校内研修

光市立三輪小学校

1 研究主題

確かな学力を身に付ける子どもの育成
～数学的な見方･考え方を働かせ､数学的表現力を高める授業づくり～

2 研究主題について

本校では、学校教育目標「楽しく学び　仲良く集う」のもと、知・徳・体のバランスのとれた「挑戦する子ども」の育成を目指し、日々教育活動に取り組んでいる。一昨年度から、研究主題を「確かな学力を身に付ける子どもの育成」とし、より多くの児童に「確かな学力」が身に付くよう、国語科における表現力の向上に焦点を絞って２年間、研究を重ねてきた。特に、特別支援教育の視点での教室環境の整備、児童の特性やつまずき、課題に応じた学習活動の工夫により、安心かつ主体的に学習に取り組み、自信をもって自分の考えを表現しようとする児童が増えてきたことは確かである。また、ノートづくりの継続的な取組により、自分の考えに根拠や理由を加えて書いたり、参考になる友達の考えも書き足したりするなど、学びの足跡が残る分かりやすいノートづくりも表現力向上の大きな要因となった。

来年度から全面実施となる新学習指導要領では､「各教科の見方・考え方を身に付けること」が重視されていることから、今年度は、算数科において、問題解決における思考過程や振り返りの内容に重点を当て、数学的表現力を高めていく中で、児童により確かな学力を身に付けさせていきたいと考える。そこで、研究主題はそのまま「確かな学力を身に付ける子どもの育成」とし、副主題を「数学的見方・考え方を働かせ、数学的表現力を高め合う授業づくり」と設定した。配慮を要する児童も多いことから、その方策として、特別支援教育の視点を取り入れた授業改善をさらに進め、一人一人の教育的なニーズに応じた「わかる」「できる」ことを実感できる授業づくりに向け、取り組むこととした。

2　研究の内容

（1） 目ざす児童の姿

〇低学年：必要に応じて具体物や図などを用いて簡潔に表現したり考察したりできる子

〇中学年：目的に合った表現方法を用いて問題解決したり、解決の過程や結果を多面的に捉え考察したりできる子

〇高学年：目的に応じて多様な表現方法を用いて問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察したりできる子

（２）特別支援教育の視点を取り入れた授業改善の視点

○　ねらいやゴールが明確で、解決への見通しが分かりやすい。（焦点化）

○　指示や説明が簡潔で分かりやすい。（共有化）

○　解決したくなる課題や、発問の指示の仕方やタイミングが工夫されている。（動機づけ）

○　ICT 等の活用や構造的な板書で、情報が視覚的に捉えやすい。（視覚化）

○　書いたり交流したりする活動のバリエーションがある。（柔軟性）

○　学びを整理する時間が確保されている。（振り返りの充実「み・わ・も」）

（３）授業での学びを支える取組

○　教室環境の整備（視覚刺激への配慮、スケジュールの提示、座席配置の工夫）

○　学習規律の定着（「学習のきまり」の徹底、ノートづくりの指導）

○　受容的・寛容的な学習集団づくり（互いのよさを見つけ認め合う活動）

○　家庭学習の習慣化（「家庭学習の手引き」、家庭への情報発信）

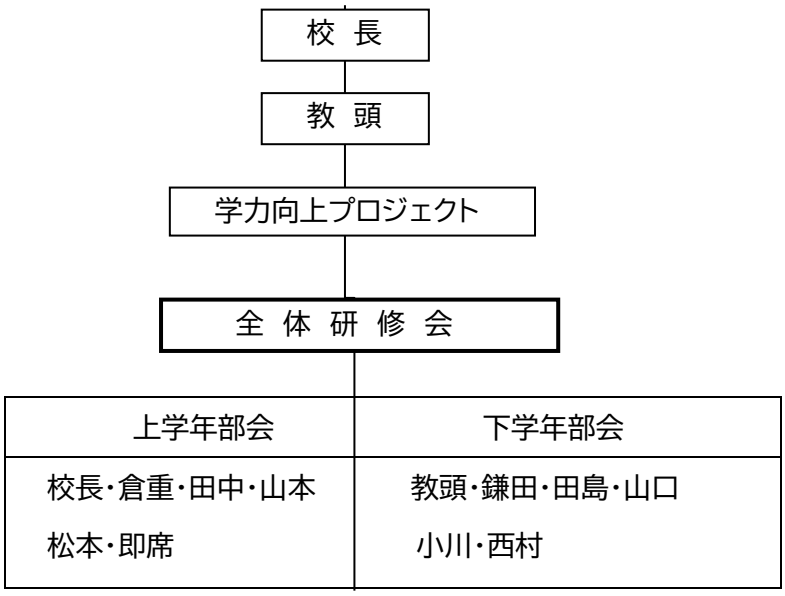
○　朝学習、チャレンジタイムの充実（基礎的・基本的な内容の定着、朝読書、読み聞かせ）

○　学力の実態把握と個別支援体制の整備（学力調査、学力定着確認問題等の分析を基にした個別指導、サマースクールの活用）

○　学力向上プランの有効活用（年２回の PDCA サイクル）

○　授業評価（地域、保護者、児童、互見授業での実施）

４　研修組織



※上学年･下学年の部会を設定し、教材研究や指導案の検討を行う。

※研究協議会は、ワークショップ形式とする。

5 研修計画

月日(曜日)	研修会	研修の内容
4/17(水)	全体会・特別支援教育	本年度の研究の方針、指導案形式の検討
		特別支援教育研修会、学力向上プランについて
18(木)	部会別	学力調査　正当確認
5/15(水)	全体会・部会別	ノート指導について(年間5回)
		確認テスト、全国学力調査の結果分析
29(水)	全体会	指導案検討「外国語」(6年)
		確認問題結果分析
6/19(水)	大和地域	小中連携春季研修会
26(水)	全体会	指導案検討(3年)
7/10(水)	全体会	授業研究(3年)
7／30(火)	全体会	特別支援教育研修会
		学力向上や学級づくりについて情報交換
8／7(水)		人権教育研修会
		道徳教育研修会
8／25(日)		指導案検討(5年)(6年)
9／2(月)		教育課程復伝
9/11(水)	全体会	授業研究(5年)
18(水)	全体会	授業研究(6年)
25(水)	部会別	学力向上プランの前期分評価・見直し
10/30(水)	全体会	指導案検討(2年)
11/13(水)	全体会	指導案検討(4年)(1年)
20(水)	全体会	授業研究(2年)
27(水)	全体会	授業研究(4年)
12/11(水)	全体会	授業研究(1年)
1/15(水)	全体会	指導案検討(たんぽぽ1、2)
22(水)	全体会	授業研究(たんぽぽ1、2)
2/12(水)	全体会	研究のまとめ　成果と課題
26(水)	全体会・部会別	来年度の研修の方向性
		学力向上プラン後期分評価・見直し

6　研修の実際（別紙：実践記録）

（１）前期

○　研究主題、研究副主題、全体構想、研究組織、研修計画の共通理解、指導案形式の検討

○　山口県学力定着状況確認テスト、全国学力状況調査の分析による本校の課題の共通理解

○　ノート指導・ノート検定の共通理解

○　人権教育研修

○　道徳教育研修

○　学力向上に向けての各学年取組状況等の情報交換

○　学力向上プランの前期分評価と見直し・共通理解

○　教育課程研修復伝

全校一斉ノート検定風景

〈授業研究〉

○　第３学年　算数科「買えますか？買えませんか？」講師：山根　靖弘　様（久保小学校教諭）

○　第５学年　算数科「整数」　講師：兼安　陽一郎　様（付属光小学校教諭）

○　第６学年　算数科「速さ」　講師：山下　美華　様（光井小学校教頭）

（２）後期

○　学力定着状況確認問題の正答・誤答確認と課題や傾向の分析と共通理解

○　学力向上に向けての取組状況について情報交換

○　プログラミング教育研修

○　特別支援教育研修

○　埼玉全国学校体育研究大会、土堂小学校研究発表会、熊本大学付属小学校研究発表会復伝

〈授業研究〉

○　第２学年　算数科「かけ算（１）」　講師：加藤　剛　様（光市教委指導主事）

○　第４学年　算数科「小数×整数」　講師：山根　靖弘　様（久保小学校教諭）

○　第１学年　算数科「ものとひとのかず」講師：河村　直子　様（山口県教委指導主事）

○　たんぽぽ１・２自立活動「買い物ごっこをしよう」講師：杉原　文輔　様

（田布施総合支援学校小学部主事）

7　成果と課題

数学的見方・考え方を働かせるために、各学年で身に付けさせたい「見方・考え方」を各領域ごとに意識し、既習内容を想起したり、思考や表現の手段として、絵や図、数直線図や線分図、関係図を自在に活用したりできるように努めた。意見交流の際には、ノートやワークシートのみならず、ホワイトボードを使うことで、思考の見える化が可能となり、自他の思考が整理され、より理解が進んでいった。しかし、発達段階を考えると、低学年では、ブロックなどの半具体物や自分のノートを実物投影機で映しながら説明する方がより生き生きと表現でき、友達と共有できやすいという

ことが分かった。更に、話し合いを活性化させるためには、「どうにかして解決したい」という解決意欲の喚起や自分の正しさを友達に説明し、分かってもらいというような問題提示の工夫や共有する場や時間の設定、そのタイミング等、教師の見極め方が大事であると痛感した。また、互いの思考を共有する際には、教師の問い返しだけではなく、「ここまでは分かりますか。」「質問がありますか。」「質問があります。」「だったら、他にもいい考えがあります。」等、児童同士の問い返しや言い換えが効果的であることも分かった。児童の自然な欲求や発言を引き出し、思いや願いをつなぐことで、よりいっそう友達の意見や考えを自分事として聞き始めるからである。また、ノートへの記述も含め、具体的にどこがよかったのかを称賛することでさらに表現することや聞くこと、学ぶことを楽しみ出すということも分かったことは大きな成果といえよう。

しかし、学んだことを継続し、確かな学力まで高めていくための本時の振り返りの生かし方が十分ではなかったことは反省点として残る。学びを整理し、更に追究してみたい、生活の中で活用していきたいとの思いをもたせるための評価の工夫と時間の確保が必要であった。

8　来年度に向けて

児童が主体的に既習の知識や技能と関連付けながら、問題を自立的・協働的に解決していけるよう、まずは教職員が各学年の既習事項や算数用語、そして身に付けさせたい各領域ごとの「数学的な見方・考え方」を共通理解しておく必要がある。系統的に整理し、学びのつながりを明らかにしながら指導していくことが、児童の学びに向かう力を高め、進んで生活に生かそうとする態度を育成することになるからである。「分かる」「できる」「楽しい」授業をめざし、研究を進めていきたい。

【研究同人】

松本マリ子　田島裕衣　山口倫子　西村美咲　守冨美香子　倉重孔隆
小川裕之　山本彬寛　岩田謙治　大浪知子　田中崇江　鎌田雅恵　即席千恵